
夢せかい。

ゆき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢せかい。

【Nコード】

N8413J

【作者名】

ゆき

【あらすじ】

朝起きたら、銀時は神楽の夢の中。

どうやら、真選組の沖田も巻き込まれたらしい。

銀時は無事、夢から抜け出せるか?!

スタート地点（前書き）

銀時、沖田、神楽がメインです。

あとの面子も敵とかで出る・・・と思う。

ちなみに、連載作品になつてますが、

話がぐだぐだすぎるので、1話完結にしました。

頑張つて読んでください↑

スタート地点

朝。それは、俺にとってスタート地点だった。
小鳥が飛び交う中、俺は戦場に向かう・・・。

・・・いや、まじで。

今そんな状況・・・。

きれいごととか、そう言うんじゃないくて。

ちゃんと、『スタート地点』って立ってるし。

これ、一体何事？

意味不明なんですけど・・・。

え？何これ？

朝起きたらこれ？

ええ？！

「旦那ー！おはよう御座いますア。よく眠れましたかい？？」

「そ・・・総一郎くん！！これ一体何事？！」

「総悟です。それがですねー・・・。俺にもよく分からないんですア。」

起きてみればこれですせー。」

「ええ？！俺大丈夫？死なない？！帰れる？！」

「そんなん分かりやせんぜー。旦那」

「分からないって・・・どーすんの？！」

ちょ・・・ちょっと。

何これ？え？

よく漫画とかである、朝起きたら変身していました。

とかそう言う展開？！

ええ・・・。

とかなんとか言ってたら突然、声が聞こえてきた。

「．．．．．勇気ある挑戦者たちよ。昨日はよく眠れたかね？」

「誰っすかイ？あんた？」

「．．．この声は神楽？！」

「そうアル。よく気付いたネ。銀ちゃん。

私は神楽アル。」

「ちよつと、チャイナ。これどう言っ展開なんだイ？」

「黙れ、カス。」

「．．．旦那、こいつ今標準語で暴言吐きましたぜイ？絶対キアラ作ってまさア。」

「今、お前達は私の夢の中にいる。ここから抜け出すにはゴール地点を目指すネ。」

「はあ？ゴール地点？！どう言う意味だ！夢の中？」

「じゃ、頑張つて抜け出すアル！」

え、神楽どっか行っちゃったよ。

やばいよ。この展開やばいよ。

どうすんのさ？ねえ、ちよつと。

「さ、旦那行きましようぜイ？」

「え？総一郎君？本気？」

「あたりめえでさア。じゃねえとここから抜け出せねえぜイ？」

「それもそうなんだけど．．．．．銀さんちよつと．．．。」

「それに、あのチャイナの夢の中ですぜイ？大したもん出てきませんって！」

そうか．．．。神楽の夢だもんな。

どうせ酢昆布か食いもんか酢昆布くらいしかでてこねえよな．．．！

それに、総一郎くんと俺でペア組めば最強じゃねえ？

「さ、行きやしよう。旦那」

「おう。そうだなー。」

「大丈夫ですってイ。最初から敵がバア！なんてこつたア・・・」

「バア！！」

「え？」

「うわ、いきなり敵出てきたよ。こんな感じ前漫画で見たんすけど・・・」

「しかも、こいつめっちゃ眼鏡似ですぜイ？」

「いや、これ新八だろ。どう考えても！！」

「・・・ま、いや。倒しちゃいましよぜイ。旦那。」

「ええ。いくらなんでも俺、家族倒すのはちよつとお？！」

「ズサッ」

あ、倒れちゃったよ。

新八くん。

一発だよ。弱えー。

「総一郎くん。これ意外と簡単にゴール着くかもしれねえな。」

「そうですねイ。どうせ俺等の仲間が出てくるんだろイ。たぶんそう言う設定。」

「だよな。うん。絶対そうだ。」

「あの、チャイナですぜイ。そんな強えイ相手出して来る訳ねえですってイ。」

「だよな。うん。絶対そうだ。」

神楽の夢人中だしな。

強敵な相手出る訳ねえだろ。

「おるらアアあ！次は俺が相手だ！」

「あれ、今なんか聞こえやせんでした？」

「そうか？俺アなんも聞こえなかったぜ？」

「おい、次は俺が相手だ。この山崎が！」

「ですよねイ。最近、耳が悪くなってるんでイ」

「あ、そうなの？俺、いい耳鼻科紹介しようか？」

「まじですかイ。今度つれてってください」

「あー。暇な時な。．．．でも、あそこの耳鼻科はすごいいいよ。俺前 رفت たけど．．．ブツブツ」

「あ、旦那。こんなところに、ミントンがありやすぜイ」

「．．．ええ。俺ミントン以下ああ？！」

「おつ。俺ミントン得意なんだよねー。」

— ひゅっ —

「ぶっつ。ちょ、当たってる！」

— ひゅっ ひゅ —

「ぶっつ．．．。」

— 山崎死亡 —

ん？なんか当たった？

．．．いや気のせいか．．．。

それにしても、ここ妙に酢昆布の匂いがあるな。

さすがに神楽だけあって、お部屋の消臭剤は酢昆布の香りか？

「あ、旦那。次の敵来やしたよ」

「え．．．？」

「こんの、銀髪天然パーマがああああ！！！！」

「！！！！ひっ。」

「バキッボキッ」

「旦那あ。大丈夫ですかイ??」

「だ．．．大丈夫．．．それよりお妙ー！！」

なにやってくれとんじゃあ！！．．．夢の中だからしょうがない！！

いつもの倍返しじゃあイ！！」

「バキッボキッメキッ」

お妙撃沈。

「はあ。すつきりー。」

「やりやしたね。旦那。」

「ああ．俺もあのくらいやらせろってんだ！」

まじで、すつきりだわ。

今のは。

いつもの倍返し。

結構いいな、これ。

「いやあ。君たち。よかったアル！3体も敵倒してすっきりしたアルか？」

「3体？2体でしたぜイ？出てきたのは。」

「・・・？そうだったけ？」

「てか、これ続けれんの？」

「ぐだぐだですぜイ？」

「大丈夫アル！」

―ガチャ―

「・・・おいおい・・・？何してんの？ぶっ殺すぜ？てめえら。」

「土方さん？あれ、なんでこんなところにいるんですかイ？」

「マヨラー。出てたのか。意外アル」

「意外言うな。」

「てか、ドアなんてあったのか。」

―カチャ―

「まあいい。お前らには死んでもらう。近藤さんの命令だ。」

「・・・てんめえ。土方あ！！ふざけんなあ！」

「総一郎くん！まで！無理すんな！」

「へっ、大丈夫ですぜ。旦那。俺ア、あいにく負ける気はしないんでイ。」

「・・・はっ。上等だ。だが生意気いうのもそこまでだあ！」

「バン」

「．．．っう．．．。」

「．．．総一郎君!!」

「大丈夫でさア。旦那!俺のことなんざほつといてくだせイ。」

「グッ」

「．．．くっ．．．。」

「総一郎君!!!!」

「てめえ。万事屋の旦那。この銃弾で死にな?」

「はっ?何いってんだ?おめえ。」

「死にな。おめえは最初から気にいらなかったんだ。

俺のプライド汚しやがって。」

「んなもん、知らねえよ。」

「死にな。じゃないと。総悟が死ぬぜ?」

「．．．駄目でさア。旦那。俺のことはいいから早く!!」

「．．．俺ア、人を傷つけてまで生きたかねえんだ。．．．

ごめん。」

「旦那ああ!!」

「バンッ」

『ゲームオーバー』
・
・
・
・
。

カ
チ
ャ

「．．．土方さん。こいつ死んでませんよね？」

「ああ、弾は入れてねえからな。気絶してるだけだ。」

「．．．ふん。お前のやることにも程があるネ。これはやりすぎ

アル。

代替、私の夢の中ってどういう設定アルか？聞いたことないネ」

「まったくだ。最後には俺が悪人的なことになってたじゃねえか。」

「うるさいでチャ。このくらいがいいんでイ．．．。」

「万事屋の旦那を騙してはめるには。大胆にやらねえとねイ。」

「お前、本当、ドSだな。」

「ドドドドドドSアル。」

「．．．あたり前ですぜイ。このくらい度胸ねえとな、人をいじめるには．．．．．」

「ガチャ」

「……ねえ？旦那……。」

「ボタン」

END

スタート地点（後書き）

山崎・・・まじで存在感ねえな・・・。

てか、物語全体が本当にぐだぐだなんですけど。

沖田・・・どんな騙し方だよ！！みたいな。

4話くらいまでの予定だったんですけど、

話の流れがあまりにもぐだぐだなので短編にしました↑

最終的に夢の中の世界とか沖田のデマで、銀さんを騙す・・・

的な感じになっちゃったんですが、

実際は全然ちがうクライマックスを予想してたので正直焦りました

（爆

すんません。

次の小説は真面目にしまっす。

ゆき

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8413j/>

夢せかい。

2010年10月21日22時10分発行